

12月18日、日本エアロピクスセンターで開催したスプリント大会について、運営者の視点での報告と裏話。

田島利佳・山口大助優勝

千葉大前日にあたる12/18日本エアロピクスセンター（以下NACと略す）において千葉OLKとES関東C共催でスプリント0の大会が開催され、予選・決勝方式で行われたエリートクラスでは、ともに僅差の勝負となったが田島利佳、山口大助が優勝した。優勝者した2人には、副賞としてNACからペアの無料利用券が贈られた。

トレインは、約20年前の社会人選手権大会が開催された一部、NACを会場ゴールにその西側に広がるコテージ群、別荘地とスポーツ施設とその間の斜面林・すすき原で構成され、地図は、ISSOM2004に準拠する形で提供した。

ME上位6名

鹿島田 山口 高橋 篠原 加藤 西尾
浩二 大助 善徳 岳夫 弘之 信寛



ME 予選なぜ3クラス?

MEは、予選3クラスで実施した。参加者数は23と2クラスでも対応可能な人数であったが、運営者の中には、WOC2005の主要スタッフもあり、本番に向けての実践を通じた問題点の洗い出しもできるのではないかとということで3クラスで実施した。正直予選3クラスは運営サイドとしては結構苦労した。1番は3レーンでバラバラに割り振られたコースを間違いなく走らせられるのかという点である。常にWOCならどうなるということを意識してチェックを行った。この際、WOC、WCUPに出場経験豊富なクラブ員に確認したことはいうまでもない。結局地図・位置説明にはゼッケンNo.のみ記載することとした。

シードについては、強化選手5名をA

シードとして選出し、次にBシードとして11/30時点の日本ランキング上位者から10名選出し、各ヒートに5名ずつ振り分けた。すなわちシード選手中1名が予選通過できず、B決勝にまわる厳しいものとした。

スタート順については、クラス毎で実施し、レーンについては最後に割振りをした。結果として1クラスに欠席者3名重なることもあり、選手からは若干の不満の声もあったようである。

スタートエリアについては、スタート直後に方向が別れることから、1分前のランナーの視界に入らないように待機場所の高さを調整して行った。スタート間隔は、日頃はレース本番で並走することの少ないトップエリートが競うように1分間隔とした。

結果として、選手にも緊張感あるレースを提供できたと思っている。

ミスは起きた?

当日2つのミスが起きた。これはタッチフリーコントロールを使用の中で起こった。今にして思えばこの部分について上記のような綿密な打合せがなされていなかった。遠因としては、タッチフリーコントロール稼動中にユニット側でいわゆるパンチをした場合にある程度の確立でエラーが生じることを防止するため、タッチフリーの稼動はエリート決勝の直前に実施したこと。加えてこの稼動確認をチェックするという目的意識を持った試走をしなかったが直接の原因である。

1つ目は、MEのB決勝で起こった。ゴールの記録がないのである。ゴールもタッチフリーとしたのだが、稼動させていなかった。これは、バックアップのビデオにより後日正式記録が出た。正式記録に至る過程でも転記ミス等で修正がなされた。しかし、このことで、以後のWE・ME決勝が20分遅れとなり、選手には迷惑をかける結果となった。

2つ目はME決勝でおきた。ME単独使用コントロールのうち1つを稼動させていなかったのである。全員が通過したと判断し、レース結果を確定させた。後に1つ目の時点で再確認していれば2つ目は防止できたかとの指摘をいただいた。

本当は失格?

スプリントでは、他の種目でも同様であるのだが、立入禁止区域の通行は

失格である。今回のトレインにもホテル前の芝地、植込等の通行禁止があり、地図上でも区別したつもりであった（詳細後述）が、レース中通過したランナーがいた。これは走るスピードが速く、読図が追いつかないのに加え、現地が通れてしまうから起きてしまう。

スプリント競技においては、通行させたくない部分、たとえば崖などは、通行禁止に表記し、そこを通行した場合は失格とすることになっている。運営者側にもこのような部分には現地にも立入禁止の措置をとるべく、競技規則上求められている。しかし今回トレイン内での通行禁止の現地措置をしたのは1ヶ所のみである。

このようなトレインでは低木の植栽等への対応をどうするのか等、今後の課題となった。

地図での苦労

当初地図作成者である私は、スプリント用地図作成基準ISSOM2004に準拠する形で作成は考えていなかった。実際試走会でも、ISSOM2004に準拠したもので実施した。その後、急遽コントローラをお願いした尾上秀雄さんから、助言をいただき地図と格闘することになった。

特に苦労したのは、舗装部分の違いの表現や、通行禁止にしたい線状の植栽等である。結局、線状の植栽をOCADの面記号で記載せず、緑100%で表記し、その代わり通行可能度30%以下の緑の%を落とした。これにあわせて荒地の通行可能度すすき原の緑も面記号の緑+黒ハッチは、白図ではよく区別できたが、コース図ではなぜか緑100%との違いがわかりにくくなっていた。

印刷は、カラーレーザー複合機であるRICOH imagioを使用した。色については、違いがわかるように調整を行った。

紙はB4番だったので、nagatoyaのwhite paper厚口0.13mを使った。この紙は、白色度が100%でなく、私自身としても気に入っているのだが、やはりより白色度100%に近いものとし、トレイン部以外に若干色を入れるという技を事後、尾上さんより伺い、目からうろこが出た。

(齋藤宏顕)